

科学技術イノベーション政策研究センター について

2015年1月26日

政策研究大学院大学

科学技術イノベーション政策研究センター

科学技術イノベーション政策研究センターの ミッション及び活動方針

- SciREX中核的拠点機能の核として、以下のようなミッションを設定
 - 科学技術イノベーションが関係する諸課題の解決のため、「政策形成」と「研究」を架橋することにより、双方の共進化を促す。
 - このため、政策担当者と研究者、その他関係者が協働する場を提供し、政策側と科学の側の多様な専門性、知見や経験が触発しあうことで、政策課題の解決に資する方法論の開発・試行・実践を行う。
 - これにより、科学的根拠に基づいた合理的な議論と効果的な政策の実現に資する成果(具体的な政策案やシナリオ、政策オプションや、それらを生み出すための方法論や指標、手法等)を生み出す。
- 上記を実現するため、以下のような活動方針を設定
 - 政策への実装を志向
 - エビデンスに基づいた提言・提案
 - 学際的取組・異分野連携の促進
 - 独立性・公平性
 - 様々なステークホルダーとの議論の場
 - 現役政策担当者との連携
 - 海外関係機関との連携・協力、など

科学技術イノベーション政策研究センター における研究領域と統括機能

政策デザイン領域

科学技術イノベーション政策において緊急性が高い課題について集中的に検討を行い、政策シナリオや政策オプションの骨格をデザインする。

- 政策的ニーズが高く、複数の省庁にまたがる緊急性の高い課題について、ステークホルダーがフラットな関係で議論できる場の形成

統括機能

- 各領域の活動の支援するとともに、関係機関との連携協力・協働の取組を推進
- センターの活動や関連する取組に関する情報発信・アウトリーチ
- 複数領域にまたがるプロジェクトの企画・実施
- 新規政策課題の発掘や新しい方法論の検討などを目的とするラウンドテーブルやワークショップなどの場の運営など

政策分析・影響評価領域

科学技術イノベーション政策によって解決すべき課題について、定量的評価を加えた政策オプションを作成する。

- 科学技術がもたらす社会的・経済的影響を評価するための手法の開発
- 研究者、政策担当者等から構成される場を設置し、研究手法や政策に接続する上での課題等について検討

政策形成プロセス実践領域

科学技術イノベーションに係わる政策形成プロセスにおいて、エビデンスに基づく議論・政策立案を実現する上での課題を明確化し、課題解決のための方法論を開発する。

- ステークホルダーの価値観や利害認識、資源配分の判断基準等が政策形成プロセスに与える影響とその構造の把握

運営体制

- ・シンプルな組織体制による機動的運営
- ・各領域担当のプログラムマネージャーに大きな権限を付与
- ・運営会議及び統括機能による領域間の連携



センター長
センター全体の運営を統括
白石隆
政策研究大学院大学長



副センター長
センター長を補佐し、センター全体を運営するとともに、統括機能を担当。
有本建男
政策研究大学院大学教授
科学技術イノベーション政策プログラムディレクター

センター運営会議

- センター長、副センター長、プログラムマネージャーで構成。
- 月1回程度の頻度で、センターの全体の運営に係わる事項及びセンターで行う研究プロジェクトを検討。
- センター長は運営会議の議を経て、プロジェクトの実施の可否を決定。

プログラムマネージャー (PM)
各領域(プログラム)において複数の研究プロジェクトを運営



<政策デザイン領域>
角南篤
政策研究大学院大学教授・学長補佐
科学技術イノベーション政策プログラムディレクター代理



<政策分析・影響評価領域>
黒田昌裕
政策研究大学院大学客員教授
慶應義塾大学名誉教授
科学技術振興機構研究開発戦略センター
上席フェロー



<政策形成プロセス実践領域>
森田朗
政策研究大学院大学客員教授
国立社会保障・人口問題研究所長
東京大学名誉教授

PM補佐
各領域においてPMの領域運営を補佐

小山田和仁
政策研究大学院大学専門職

池内健太
政策研究大学院大学客員研究員
文部科学省科学技術研究所第1研究
グループ研究員

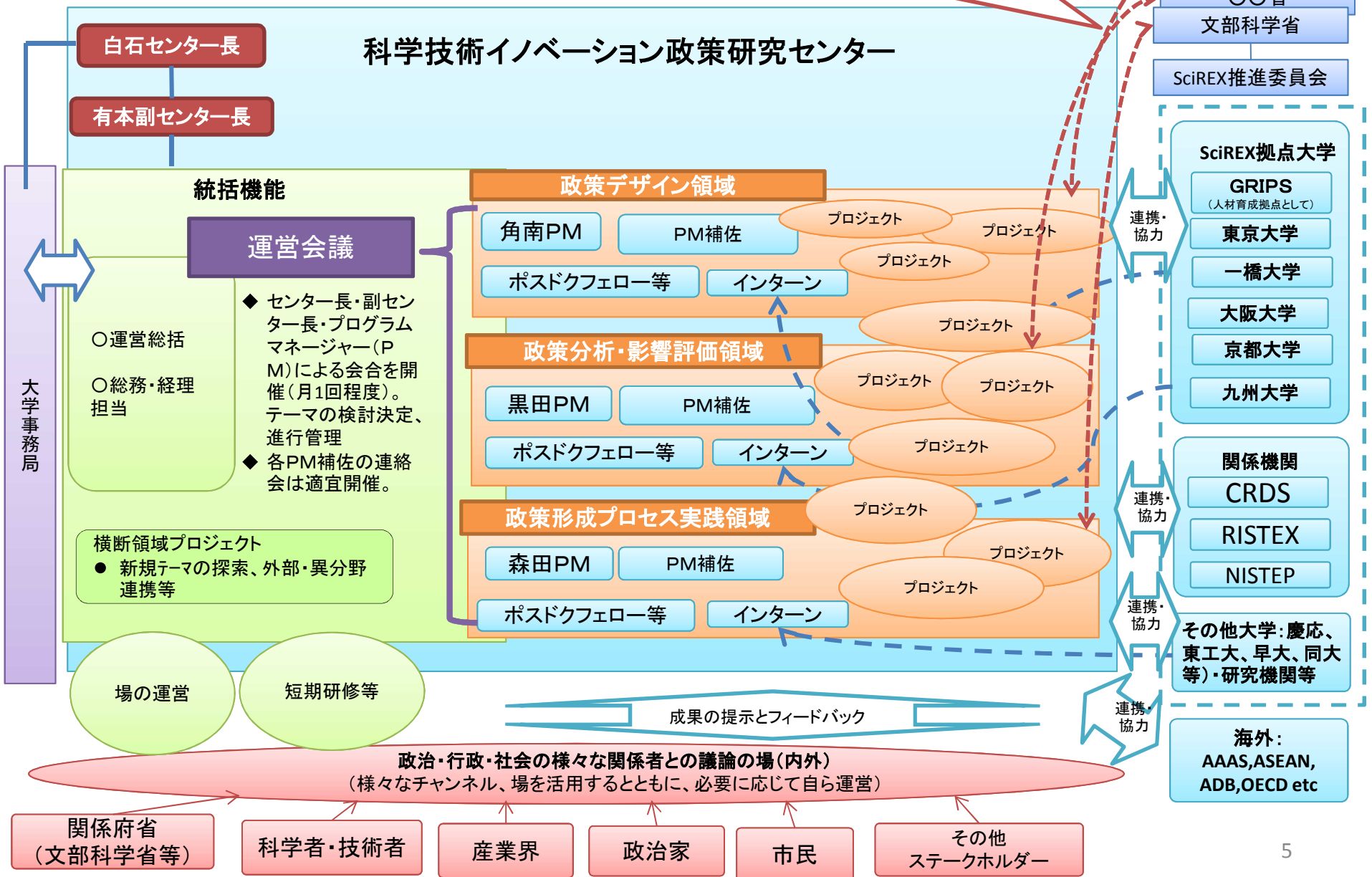
松浦正浩
政策研究大学院大学客員
研究員
東京大学公共政策大学院
特任准教授

森川想
政策研究大学院大学客員研究員
東京大学大学院工学系研究科社
会基盤学専攻助教

科学技術イノベーション政策研究センター 活動イメージ

※簡略化のため、拠点間の連携の枠組みの全体像は省略

【政策リエゾンネットワーク】
中堅クラスの行政官が「政策リエゾン」として、各種情報の共有や研究プロジェクトへの参画を通じて、問題意識や政策ニーズを研究プロジェクトに反映させるとともに、成果の具体的な政策への適用支援などの役割を担う。



各領域の運営方針(1): 政策デザイン領域

【「事業の目標、行程管理及び評価に関する基本的な考え方2014」より】

①政策デザイン領域

政策課題について多様なシナリオを検討し、それぞれの効果等について比較・分析するために必要な手法開発を行う。

【活動内容】

- 以下の条件を満たすテーマに関する政策シナリオや政策オプションを集中的に検討する。
 - 明確な政策ニーズの存在
 - 複数の省庁にまたがる課題
 - 比較的短期での対応(Rapid Response)が求められる課題
- 大学・研究機関の専門家や民間企業関係者、現役行政官など多様な参加者が参加する研究会を開催。
- この種のシンクタンクが持つべき機能・手法等の検討(行政ニーズの把握、政策プロセスと検討との間の時間軸調整(タイミング)、プロジェクトマネジメント、情報発進、等)

【2014年度実施プロジェクト】

- 北極圏問題についての我が国の総合戦略
- 科学技術外交の戦略的推進
- デュアルユース技術の研究開発
- 大学等の成果の社会展開における規制・制度とイノベーションの関係(COI構造化チームと連携)
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたビジョンと戦略



北極圏プロジェクトの取組についての国際発信
(Arctic Circle、2014年10月、アイスランド)



2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた
ビジョンを在京外国人専門家と検討
(2014年11月、GRIPS)

各領域の運営方針(2): 政策分析・影響評価領域

【「事業の目標、行程管理及び評価に関する基本的な考え方2014」より】

②政策分析・影響評価領域

社会経済情勢の把握や政策課題への対応による社会的・経済的影響の分析、課題解決のための選択可能な政策手段の影響評価などに関し、新たな科学的方法を用いた指標・手法等を開発する。得られたデータやノウハウなどの知見と経験の蓄積機能も担う。

【活動内容】

- 科学技術イノベーション政策のデータ・情報基盤の構築の蓄積や関連する取組に基づいた、政策オプションの分析・評価とそのための方法論の開発
- 政策担当者や関係機関と協力しつつ、政策オプションを立案。
- 関係する大学・研究機関等の有識者からなる「推進フォーラム」を設置して、領域全体の運営・活動計画、研究プロジェクト、方法論の検討、関係機関との連携体制等について、検討を行う。

【2014年度実施プロジェクト】

- 多部門経済一般均衡相互依存モデルの整備
- ITにおける知識基盤社会のインパクト評価(JST-CRDSと連携)
- 科学技術イノベーションの経済社会効果のレビュー

【推進フォーラムメンバー(敬称略)】

- 新井 紀子(国立情報学研究所教授/社会共有知研究センター長)
- 有本 建男(政策研究大学院大学教授/科学技術イノベーション政策研究センター副センター長/独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター副センター長)
- 池内 健太(政策研究大学院大学客員研究員/科学技術イノベーション政策研究センター/政策分析・影響評価領域プログラム・マネジャー補佐/文部科学省科学技術・学術政策研究所第1研究グループ研究員)
- 伊地知 寛博(成城大学社会イノベーション学部教授)
- 市村 英彦(東京大学公共政策大学院経済学研究科教授)
- 岩野 和生(独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー)
- 黒田 昌裕(政策研究大学院大学客員教授/科学技術イノベーション政策研究センター/政策分析・影響評価領域プログラム・マネジャー/独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー/慶応義塾大学名誉教授)
- 東條 吉朗(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構プログラム・アドバイザー/独立行政法人日本貿易振興機構サンフランシスコ事務所長)
- 富澤 宏之(文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術・学術基盤調査研究室長)
- 楡井 誠(一橋大学イノベーション研究センター准教授)
- 松崎 拓也(名古屋大学大学院工学研究科准教授)
- 柳川 範之(東京大学大学院経済学研究科教授)
- 矢野 誠(京都大学経済研究所教授)

※この他、政策リエゾンも議論に参加

各領域の運営方針(3):

政策形成プロセス実践領域

【「事業の目標、行程管理及び評価に関する基本的な考え方2014」より】

③政策形成プロセス実践領域

我が国の政治・政策過程や制度について分析し、ステークホルダーや社会・国民とのコミュニケーションを含めた政策形成プロセスの構築に向けた手法開発を行う。

【活動内容】

- 科学技術イノベーションに係わる具体的な事例に関する政策プロセスにおいて、エビデンスに基づく議論・政策立案の実現に向けての課題を明らかにし、それを促進するための方法論の開発等を行う。
- 具体的には、政策プロセスにおけるステークホルダーの理解、利益、信念といった、価値感や利害認識が与える影響とその構造を把握するとともに、資源配分の判断基準やステークホルダーのモチベーション構造を変化させることによる問題解決の方法論を検討する。

【検討中のプロジェクト】

- 地域におけるイノベーションのケーススタディ
- 社会・国民とのコミュニケーションを含めた政策形成プロセス
- 対話型政策形成を通じた行政機関における組織・個人学習の研究
- 科学的根拠重視型政策と願望投影型政策との比較 等

統括機能について

- 運営会議の事務局としてセンター全体の運営に係わる案件のとりまとめ。
- 各領域の活動の支援するとともに、関係機関との連携協力・協働の取組を推進。
- センターの活動や関連する取組に関する情報発信・アウトリーチ活動。
(年報・季報、ハンドブック・教科書、研修・ブリーフィング等)
- 複数の領域にまたがるプロジェクトの企画・実施。
【2014年度実施プロジェクト】
 - 科学技術イノベーション政策の立案及び評価に資する新規手法の開発・試行
 - 科学技術と社会に関する国際指標作りに向けての取組
- 新規政策課題の発掘や新しい方法論の検討などを目的とするラウンドテーブルやワークショップなどの場の運営。
- 以上の活動を担うため、企画・運営担当チームと総務・経理担当チームを置く。

政策リエゾンについて

- 科学技術イノベーション政策研究センターに関係府省の現役行政官等をメンバーとする「政策リエゾンネットワーク」を設置する。
- 「政策リエゾンネットワーク」のメンバー（「政策リエゾン」）は、関係府省の推薦や本人の希望等を踏まえ、センターの運営会議が決定。
- 政策リエゾンは、センターの研究活動と実際の政策形成・実施の現場をつなぐ役割を担う。
 - センターが行う研究会やセミナー等に参加し、行政側の問題意識を提示し、関係者との共有を図る。
 - 具体的な政策ニーズや問題意識の提示。
 - センターにおける研究プロジェクトの企画検討や遂行上必要な情報やデータ等の提供（職務上可能な範囲内に限る）。
 - センターにおける研究プロジェクトに参加し、必要に応じて調査研究や報告書執筆等を行うことも想定（報告書等については、センターの政策リエゾンとしての立場で発表する）。
 - 2015年1月現在、10名が政策リエゾンとして活動。

SciREX基盤的研究・人材育成拠点と 中核的拠点機能・科学技術イノベーション政策研究センターの関係



「科学技術イノベーション政策のための科学」の各種取組みと中核的拠点機能の関係

